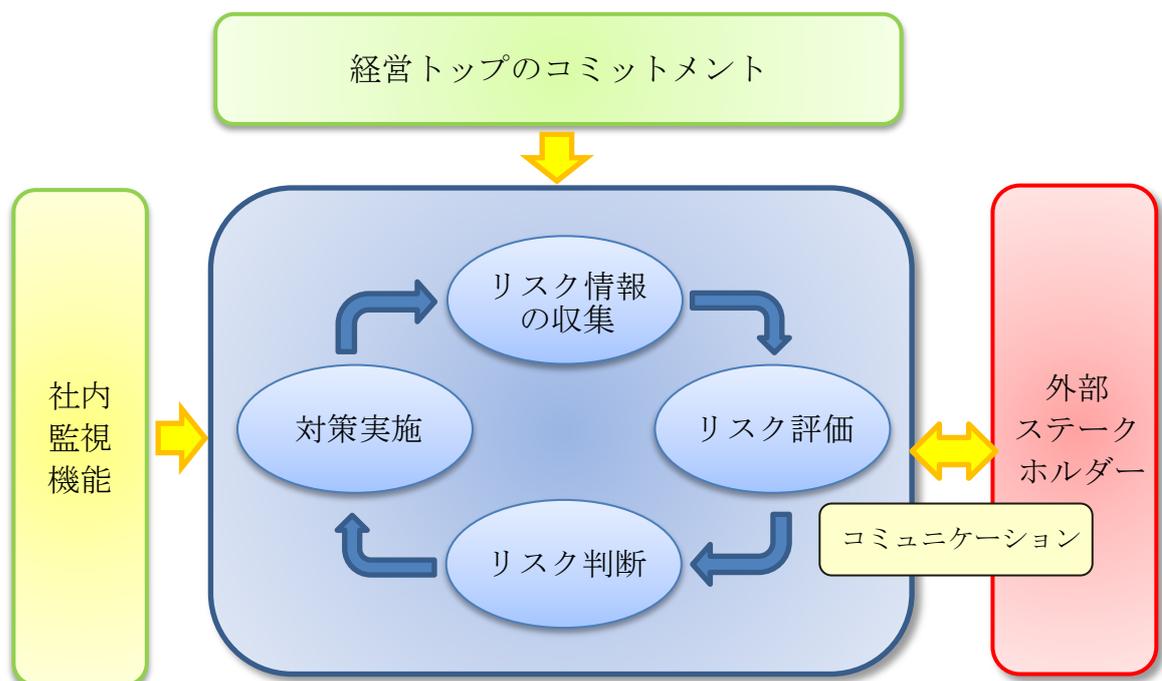


原子力の自主的・継続的な安全性向上に向けた提言を受けた取組み

1. 適切なリスクガバナンスの枠組みの下でのリスクマネジメントを実施することとの提言を踏まえ、経営トップのコミットメントの下、適切なリスクマネジメントを実施します。

- これまでも経営トップのコミットメントの下、事故情報などの知見を採り入れつつ、大間原子力発電所の計画・建設に当たってきましたが、今後、確率論的リスク評価\*（Probabilistic Risk Assessment。以下「PRA」と言います。）結果を始めとする定量化されたリスク情報からリスク状態の異変を感知し、経営判断に活かす「リスクガバナンスの枠組み」を構築します。枠組みの検討を年度内目途に進め、その後速やかな運用開始に向けた準備をします。
- 従来から地震・津波等の新知見などを収集・分析・評価等を行っていますが、今後ともリスク情報を収集し、データベース化することによって、積極的に活用します。
- リスク管理目標を設定したうえで、PRA等のリスク評価を行います。リスクによる影響度などを踏まえリスクが許容できるかの判断を行い、必要な安全対策を実施します。リスク管理目標については、継続的に見直しを行います。
- リスクマネジメントの状況について、社内に監視機能を構築します。
- 取組みの段階に応じて、立地地域の方々を始めとしたステークホルダーとのリスク認識と課題の共有を行います。

\*確率論的リスク評価：機器などの故障により発生しうる事故の種類を分析し、それぞれの発生確率と被害の大きさなどを定量的に評価する方法。

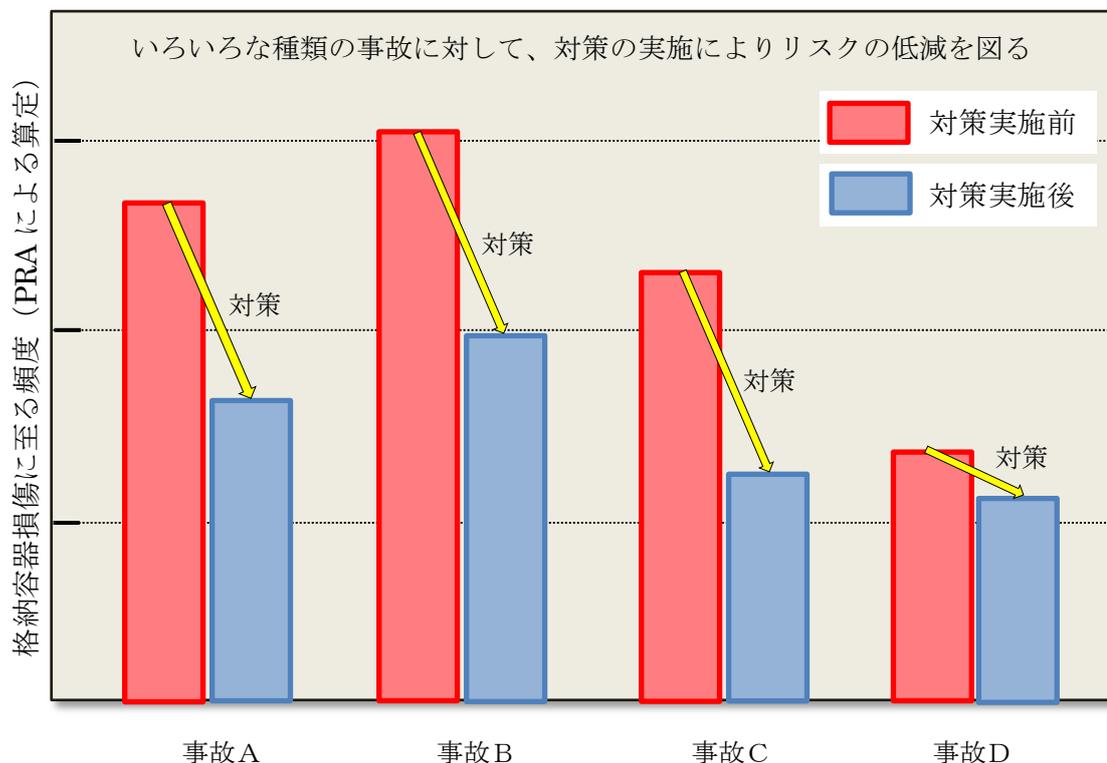


枠組みの概念図

## 2. 東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓を出発点に実践が求められる取組み

(1) 低頻度の事象を見逃さない網羅的なリスク評価を実施することの提言を踏まえ、リスク情報を扱う部署や人材を拡充するとともに、外的事象も含め対象としたPRAを実施します。

- 現在、機器故障などを原因とする内的事象のPRAに加え、地震・津波を原因とする外的事象のPRAを実施・評価中です。今後も、新知見などが得られた場合や新たな手法等が示された場合などにおいては評価を行っていきます。
- PRAを用いたリスクマネジメントを実効的なものとするために、本年4月、リスク情報を扱う部署や人材を配置し実施しています。今後も人材の育成に努めてまいります。



PRAを活用したリスク低減の概念図

(2) 深層防護の充実を通じた残余のリスクを低減することとの提言を踏まえ、地震、津波、テロ等の事象に起因するシビアアクシデント対策についても強化します。特に設計レベルの対策で安全性を高めます。

- リスクマネジメントのための技術情報を低頻度の事象も含めて適切に把握し、安全上の優先度を考慮して、リスクの高い事項等に集中的に対策をとります。
- 設計に関する情報を統合的に管理し、設計によるリスク低減に努めた上で、他のプラントに水平展開すべき事象に関してメーカーへの各種運転データの開示に努めます。また、メーカーからの提案をリスクマネジメントの一環として適切に検討します。
- 新型炉の設計や事故情報など国内外の知見をシビアアクシデント対策の向上や各種規格・基準の整備等に活かします。また、具体的な設備等の安全対策の提案を積極的に検討します。
- 残余のリスクについて評価がまとまった段階から、評価結果を立地地域の方々や規制機関を含めたステークホルダーと共用するとともに、継続的な安全性向上の取組の効果を客観的な形で示します。

		深層防護層の目的	対策例
重大事故	5層	人的被害防止 環境回復	緊急時支援組織からの資機材確保
	4層	放射性物質の放射抑制 拡散緩和	水素爆発防止装置 フィルターベント装置
	3-2層	著しい炉心損傷の防止	代替注水設備
設計基準事故	3-1層	炉心損傷の防止	緊急炉心冷却装置
	2層	事故への拡大防止	プラント自動停止
	1層	異常・事故の発生防止	インターロック 自動制御

(要員確保／教育・訓練の実施)  
ソフト面の強化

深層防護による対策とソフト面の強化

(3) 我が国特有の立地条件に伴う地震・津波等の外的事象に着目したプラント毎の事故シナリオ及びクリフエッジの特定と、既存のシステムでは想定されていない事態への備え及び回復を含むレジリエンスの向上を図ることとの提言を踏まえ、ソフト面でのシビアアクシデントマネジメント等を行います。

○想定を大きく上回る地震・津波等の外的事象によって起こりうる事故の種類（事故シナリオ）や設計上考慮している限界（クリフエッジ）の評価等を行い、万が一のシビアアクシデントに備えます。ハード対策のみならず、ソフト面でのシビアアクシデントマネジメントについても取組みます。なお、建設中である大間原子力発電所において、ソフト面の構築は、設備が整った段階から順次行う予定です。

- ・ 事象の進展シナリオや放出量予測等のデータを提供することにより、自然環境特性に応じた避難計画の策定等に活用していただけるようにします。
- ・ 緊急事態対応チームの能力の継続的な向上等により、事故対応への応用力や回復力（レジリエンス）の向上を図ります。

○緊急時対応を的確に対処できる判断能力に長けた人材の育成に努め、実践的な訓練に取り組めます。これらについても、設備が整った段階から順次行う予定です。

○これらの取組みは、国、地方自治体、産業界と協力し、立地地域の方々などにも透明性の高い形で、継続的かつ着実に進めます。

3. 取組みを着実に進め、根付かせるために特に求められる組織が持つべき姿勢に対する提言を踏まえ、当社の姿勢について意識的、組織的に取組みます。

○批判的な思考・疑問を抱く姿勢、残余のリスクへの想像力、発電所の設備・設計への深い知見等を含め、安全第一に考える組織文化構築に向けた継続的な取組みを行います。

○国内外の最新の知見を踏まえて、継続的な安全性向上に努めます。

○積極的な情報公開とリスクコミュニケーションに取り組めます。

以 上